



緊急面談（新幹線走行中の運転席離脱）は 単なるアリバイ工作づくりだ！！

静岡県内を走行中の新幹線運転士が、腹痛のため一時トイレに行き、運転席を離席した問題で、JR東海の金子社長は、5月28日の記者会見で「言うべきことを言わなかったこと。それが一番悪いんだということを徹底する」「体調が急変した場合に新幹線を止めてでも安全に運行すべきだった」「ちゅうちょなく体調不良を申告できる組織にするよう改善する」意思を示しました。

また、金子社長は、そのために「各職場の責任者を集めて話をして、各現場において管理者が乗務員と面談を始める」と発言しました。

実際、職場の面談で直ちに列車を止める不安について払拭されたのか！？

現場の面談で、管理者は「体調が急変した場合には新幹線を止めるように」という周知はありました。

しかし、問題の核心は、「なぜ、体調不良を申告しにくいのか？」

「なぜ、言うべきことを言わなかったのか？」

「なぜ、体調が急変したのに新幹線を止められなかったのか？」

残念ながら、この核心部分の疑問に関しては何の解決にもなっていません。

それは、この会社の組織・体制・風土・職場環境が、そうになっていないということです。

この面談だけでは、腹痛を起こしても直ちに列車を止めるという不安に関しては、全く払拭されたわけではありません！

**私たち東海労は、乗客と乗務員の安全を確保するために、
今後もJR東海会社経営陣の対応を注視していきます！！**